

基本政策 1 安心して農業が行える

【基本政策の方向性】

生産地と消費地が隣り合う、都市近郊の利点を生かした、持続可能な“農業”の実現と多面的機能を生かした“農地”の保全との両面から、環境整備を推進し、安心して農業が行える“まち”を目指します。

5年後の目指す姿

「農業を行うための環境の向上」

優良農地の保全を図り、生産技術の向上と安定した経営基盤づくりを進め、新規就農者を含めた農業の担い手が安心して農業を継続できるよう、農業環境の向上を目指します。

【数値目標】	現状値	目標値
人・農地プラン※対象面積 ※農業者が話し合いに基づき、地域農業における中心経営体、地域における農業の将来の在り方などを明確化し、公表したもの	49ha (R1)	⇒ 64ha (R7)

基本施策

1－1 農業基盤・農業環境の整備

将来にわたっての農業振興策を見据えた優良農地の確保や、農地中間管理事業¹を活用した利用集積等による経営規模の拡大、農業集落における道路や水路の改修など、農業基盤・農業環境の整備を推進します。

【KPI】	現状値	目標値
農地中間管理事業実施面積	約 8.8ha (R1)	⇒ 12ha (R7)

【主な取組】 農地の集積・維持

将来にわたって農業を継続できる環境を整備するため、農地の集積・維持に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
農地耕作条件改善事業(※)実施地区数 ※区画拡大などを実施するとともに、高収益作物への転換に必要な取組をハードとソフトを組み合わせ一括支援する事業	1 地区 (R1)	⇒ 2 地区 (R7)

¹ 農地中間管理機構が所有者から農地を借受け認定農業者等がまとまりのある形で農地を利用できるように配慮して貸付ける事業

1－2 農地の適正管理

食の生産基盤を守り、良好な周辺環境を維持するため、関係者、関係団体とともに、農地の適正管理を推進します。

【KPI】	現状値	目標値
耕作放棄地面積	6.2ha (R1)	⇒ 維持 (R7)

【主な取組】 耕作放棄地の解消

農業従事者の高齢化や、後継者不足などの課題に対し、将来にわたって農業を継続することができるよう、耕作放棄地の解消に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
耕作放棄地解消に向けた農業委員会と連携したパトロール	3回/年 (R1)	⇒ 5回/年 (R7)

1－3 担い手の育成・確保

関係機関と連携し、営農指導など認定農業者²の育成を推進します。また、農業後継者や新規就農希望者の不足を解消するため、県や農業関係団体などと連携し、定年帰農者、女性農業者、農福連携による農業者など多様な担い手の確保を推進します。

【KPI】	現状値	目標値
新規就農者数（年度単位）	—	⇒ 毎年度＋1名以上

【主な取組】 意欲ある農業の担い手の支援

農業経営を改善し、認定農業者・認定新規就農者を増やすとともに、経営規模の拡大、良質な農産物のブランド化を目指し、農業機械、資材等の購入支援など、意欲ある農業の担い手の支援に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
認定農業者数	33 経営体 (R1)	⇒ 40 経営体 (R7)

²農業経営規模の拡大、経営の合理化などの経営改善計画を作成し、市が認定した農業経営者などのこと

1-4 儲かる農業の実現

生産性の向上や付加価値の向上、販路開拓など、意欲ある経営体（農家）の新たな取組や工夫を関係団体とともに支援し、収益性の高い経営モデルを確立することで、儲かる農業の実現を目指します。

【KPI】	現状値	目標値
経営耕地面積	510ha（R1）⇒	維持（R7）

【主な取組】 経営改善の推進

担い手の高齢化などによる農業労働力不足について、ICT 技術の利用、省力化・精密化や高品質生産の実現を目指す「スマート農業」を活用し、新規就農者の確保や栽培技術力の継承など経営改善の推進に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
経営改善を行う農家への支援	—⇒	実施（R7）

関連する SDGs ゴール



食の生産基盤である農業を守るとともに、生産性の向上や付加価値の向上など、儲かる農業の実現に取り組みます。 関連ターゲット（2-1,2-3）



ICT 技術の利用による「スマート農業」の実現を支援し、持続可能で効率的な農業経営となるよう取り組みます。 関連ターゲット（12-a）

関連計画等

農業振興地域整備計画（令和2年度～）

関連部署

まちづくり推進部 産業振興課

